立教大学学術推進特別重点資金（立教ＳＦＲ）
大学院学生研究
２０１８年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院　社会学　研究科　社会学　専攻			
研究代表者（2019年3月現在のものを記入）	在籍課程・学年・学生番号	氏　名		
	☐博士前期課程　年 ☑博士後期課程　５年・14SB002D	廣本　由香　印		
指導教員	所属・職名	氏　名		
	社会学部・教授	関　礼子　印		
自然・人文・社会の別	自然　・　人文　・　社会	**個人・共同の別**	個人　・　共同　名	
研究課題	パイナップルと社会運動――モノ・ヒト・コトが交錯する八重山社会			
研究組織（研究代表者・共同研究者）※2019年3月現在のものを記入	在籍研究科・専攻・課程・学年	氏　名		
	研究代表 社会学研究科・社会学専攻・博士後期課程５年	廣本　由香		
研究期間	２０１８　年度			
研究経費（1円単位）	（支出金額）　100,000円　／（採択金額）　100,000円			

研究の概要（200～300字で記入、図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究では、特定の地域の特定の人びとによるパイナップル（以下、パイン）とのコミュニケーションや生活世界によって、パインの価値は決して同一には現れることはなく、特別な意味が生成されるという議論を展開した。本研究は、沖縄・石垣島の移民二世にとってパインとはいったい何であるのかという問いを立て、その問いを紐解く視野を開くものである。本研究の問いにたいする結論を述べると、移民二世にとってパインは、自立した生活を支える自己アイデンティティや「少数者の共同性」を形成するものであり、パイン生産による土地の価値転換やパインの価値づけから、自らの環境世界を創造するものであることが明らかになった。

キーワード（研究内容をよく表しているものを３項目以内で記入。）

〔　パイナップル　〕〔　植民地的支配　〕〔　社会的承認　〕

研究成果の概要（図･グラフ等は使用しないこと。）

問題の背景

現代の日本社会では、パインアップル（以下、パイン）は Dole や Del Monte などのグローバル企業によって熱帯地域のプランテーションで大量生産され、大型コンテナで輸入されるようになった。大概の人びとのあいだでは、遠く離れた亜熱帯地域で生産されるパインも、都市部のスーパーマーケットやコンビニで販売・消費されるパインも、同一のパインとして認識されている。いつどこにいても手軽に手頃に食べられる、それがこの社会で共有されるパインの普遍的価値である。

しかし、パインの普遍的価値の浸透の裏返しで生じる意味喪失は、ユルゲン・ハーバーマスが「システムによる生活世界の植民地化」（ハーバーマス 1981＝1987: 319）と呼んだ文化の困窮化を生じさせる。大量生産／大量消費システムのなかでは、パインと人の相互行為やパインを介した人と人との相互行為は匿名化され、生活世界から切り離されて技術化される。そこには、パインを介して一人ひとりがかけがえのない存在として他者と出会い、コミュニケーションをとおして互いの自己を表現し、個性を形成し合いながら構成する相互主観的な世界はない。

研究の成果

本研究では、彼らの自己アイデンティティや自己実現の問題にたいする理解の柱として、アクセル・ホネットの承認論で取り出される三つの承認形式と尊重欠如を補助線にした「社会的承認」という概念を導入する。社会的承認は、人間が生きていくうえで他者によって認められて受け入れられる経験をどれほど必要としているのかという洞察がその土台にあり、人間が社会のなかで存在がまるごと愛されること、等しく認められること、差異がきちんと評価されること、総じて他者から認められて存在が受けいれられることを求めた生活実践や生き方を把握する視点である。

本研究のなかで社会的承認から検討していくのは、単に人間と人間の関係を主題化する社会的承認のみならず、自らの環境世界への社会的承認である。それは地域における環境の定義の獲得と言い換えることもできる。社会的承認において環境の視点の検討が求められるのは、私たちが生きる社会は、モノ＝自然（物）を必要とし、利用・管理し、意味を与える人間と環境の関係で成り立ち、こうした有意味な関係性が網の目のように連関した環境に社会は適応し、それを変化させているからである。さらに、本研究では人間とパインの関係を、人間と自然の関係から捉えるだけでなく、人間とモノの関係として捉えることで、自然（物）の移動という視角も組み込むことができ、パインの移動によって創造される地域の自然や環境世界にまで視野を広げることが可能となる。

本研究の調査対象地である石垣島は、八重山諸島のなかでも移民を送り出すというより、移民を受け入れてきた島として、大きく歴史を展開してきた。先祖代々暮らしてきた人びとと、多様な社会的な背景やルーツをもつ移民が集って文化や社会をつくってきた島嶼ゆえに「合衆国」（三木 2010）といわれてきた。本研究では、地理的文化的な意味で「周辺」に位置づけられる名蔵・嵩田地区で暮らす移民二世 3 名の生活史を取り上げる。なぜ特定の移民二世を対象にしたのかといえば、「〈社会的に存在を否定されているような感じ〉」（ホネット 2000＝2005: 106）を抱いてきた彼らにとって、パインが自己アイデンティティや自己実現の問題と関係し、自立した生活の維持・存続にかかわるものとして生活史と密接に結びついているからである。彼らの生活史では、社会共同体の構成員として法的に認められずに尊厳が傷つけられた経験や集団的特性から差別やいじめを受けてきた経験、地域共同体のなかで変わり者や浮いた存在として疎外感を抱いてきた経験が語られる。このように地域共同体から不当な承認を受けたり、承認が歪められてきたりした一方で、移民や後続世代は社会が直面した危機的状況に対して、その時その時でパイン生産を発展させてきたことで、地域共同体から社会的承認を得てきた。

研究成果の概要　つづき

こうした社会的承認によって、自立した生活に欠かせない自己アイデンティティを形成・維持し、人生を豊かにする自己実現に向かって進んできた。ただし、同じ地域の移民二世とはいえ、自己アイデンティティの自己決定は同一ではなく、パインとのコミュニケーションや生活世界によって、台湾系、パイン農家、「へんな」というようにアイデンティティの自己決定は異なり、個々人の差異から自己を表現し、個性を築いている。

彼らの生活史では、適地適作の観点から、パインによる土地の価値転換やパインの価値づけに向けた生活実践をとおして、地域に付された否定的な自然や風土、歴史に対する見方を転換して環境世界を創造している。G・H・ミードの「自我であるためには、人は共同体の成員であらねばならない」（ミード 1934=1995: 201）という視点に立ち返れば、創造された環境世界で、地域と自己の肯定的な関係を築き、自己の社会的な存在価値を生み出している。

さらに、パインの社会的相互作用によって形成される「少数者の共同性」は、パインをとおした他者との関係、自然との関係、地域との関係の自覚化を経て社会的な存立性の根拠としてあり、社会生活を成り立たせるものである。しかし、「少数者の共同性」は、強い共同意識に支えられて強固に関係づけられる単一の多数者の共同性ではない。「少数者の共同性」は、社会状況や問題の認知によってパインを発達させる課題への認識や解決に向けての行動が異なるように複数存在する。本研究では、パイン生産をめぐる台湾ネットワークの共同性や栽培の共同性、生産出荷組合の共同性として発現した。本研究から言えるのは、いずれもパインの発達から地域を発展させようとする共同性に変わりはないということである。本研究では、地域のにおける「少数者の共同性」の複数性から、従来の沖縄研究とは異なる共同性の回路を導き出したといえるだろう。

本研究では、パイン産業史の陰に隠れてきた一人ひとりの生活史を社会的承認によってすくいあげることで、パインを文化や歴史、地域資源へと成長させた、移民やその後続世代の生活実践や生き方を示すことができた。このように生活史のなかで発達してきたパインは、石垣島の移民や後続世代にたいして、過去の尊厳毀損の経験やアイデンティティが脅かされる不安定な状況を打ち破り、未来に向けて自由で自立した生活を送れる力を与えてきた。それゆえに、パインは生活世界の保存や社会的・文化的な自己理解にもかかわるものとして存在し、現在では地域社会の文脈に広く開かれることで石垣社会を語る象徴の一つとなったといえる。

本研究は、沖縄研究のなかで、石垣社会という多様な社会的な背景やルーツをもつ人びとが生きる「場」から問題を発し、「生の実存」（関 2018: ⅱ）の視点から生活史を取り上げ、自己アイデンティティや共同性を示すことによって、標準化・規範化された沖縄の語り方を変えることにつながった。それは、日本社会の多様性を参照するための沖縄ではなく、沖縄自体の多様性や複雑性を語ることにつながり、多元的な社会を描き出すことに成功した。

参考文献

Mead, G.H., 1934, *Mind, self & society from the standpoint of a social behaviorist,* Chicago, Ill.：University of Chicago Press.（＝1995, 河村望『デューイ＝ミード著作集６　精神・自我・社会』人間の科学新社.）

Habermas Jürgen , 1981, *Theorie des kommunikativen Handelns* ,Suhrkamp.（=1985-87, 河上倫逸ほか訳『コミュニケイション的行為の理論』(上・中・下）未來社.）

関礼子, 2018,「移動の島の歴史的伸長――孤の思想から合衆国・石垣を描く」関礼子・高木恒一編『多層性とダイナミズム――沖縄・石垣島の社会学』東信堂.

Honneth Axel, 2000, *Das Andere der Gerechtigkeit : Aufsätze zur praktischen* Philosophie, Suhrkamp.（＝2005, 加藤泰史・日暮雅夫ほか訳『正義の他者――実践哲学論集』法政大学出版会.）三木健, 2010,『「八重山合衆国」の系譜』南山舎

※この（様式２）に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（Ａ４縦型横書き１枚・自由様式）を添付すること。

研究発表（研究によって得られた研究成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。なお、成果発表を確認できる資料を合わせて提出してください。）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）

廣本由香、博士学位申請論文、環境世界を創造する人びと――沖縄・石垣島におけるパインと社会的承認、2019年3月